

中一国語

故事成語 第二回 蛇足

講師・・羽場雅希

- ◆今日の授業で学ぶこと
- ・故事成語

次の漢文を、書き下し文にできますか？

狐、借^ル虎^ノ威^ヲ

↓狐^{きつね}、へ 虎^{とら}の威^いを借^るる

これが：「虎の威を借る狐」のもとになつた漢文。

百聞は一見に如^しかず、矛盾、漁父の利、
螢雪^{けいせつ}の功^{こう}、守株^{しゅしゆ}、五十歩百歩、塞翁^{さいおう}が馬、
推敲^{すいこう}、蛇足^{だそく}、画竜点睛^{がりようてんせい}、朝三暮四^{ちようさんぼし}、雨垂^{うで}
れ石^{いし}を穿^{うが}つ、虎の威を借る狐、杞憂^{きゆう}、知^ち
音^{いん}、逆鱗^{げきりん}に触れる、酒は百薬の長、等々

↓これらは、中国の昔の話（故事）に由来する言葉で、へ故事成語<という。

【蛇足】

楚に祠る者有り。

其の舎人に卮酒を賜ふ。

舎人相謂ひて曰はく、

「数人之を飲めば足らず、

一人之を飲めば余り有り。

請ふ地に画きて蛇を為り、

先づ成る者酒を飲まん」と。

一人の蛇先づ成る。酒を引き且に之を飲まんとす。

乃ち左手もて卮を持し、

右手もて蛇を画きて曰はく、

「吾能く之が足を為る」と。

未だ成らざるに、一人の蛇成る。

其の卮を奪ひて曰はく、

「蛇固より足無し。

子安くんぞ能く之が足を為らん」と。

遂に其の酒を飲む。蛇の足を為る者、

終に其の酒を亡へり。

〈漢文読解に役立つ知識〉

① いはく……と。(会話・台詞を表す)
……の部分が会話文。

② 能く……。
……することができまる。

〈現代語訳〉

楚の国に神を祀る人がいた。その従者たちに大きな入れ物に入れた酒を与えた。^{あた}

従者たちは相談して言った。

「数人でこれを飲めば足りないし、一人で飲めば余る。地面に蛇を描いて、先にできた者が酒を飲むことにしよう。」

一人の蛇がまずでき上がった。酒を手にとって、飲もうとした。そこで左手で入れ物を持ち、右手で蛇を描いて言った。「私はこいつの足を描くこともできるぞ。」

(足が) まだでき上がらないうちに、別の一人の蛇ができ上がった。入れ物を奪って言った。

「蛇にはもともと足などない。あなたはどうしてこいつの足を描けるんだ。(いや、描けるはずがない)」

そのまま酒を飲んでしまった。蛇の足を描いた者は、とうとうその酒を飲みそこなった。

〈解説〉

この話の流れから、「蛇の足≡蛇足」とは、〈よけいなもの〉を表す。

【第一問】

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

楚^その国に、祭りをつかさどる者がいた。その人が、自分の従者たちに大杯^{たいはい}の酒をふるまった。従者たちは①相談した。

「数人にてこれを飲まば足らず（飲んだら足りないが）、一人にてこれを飲まば余り有り（十分すぎるほどだ）。請^こふ（どうだね）、地に画^{ゑが}きて蛇をつくり、先^まず成る者酒を飲まん」とす。

一人の蛇先づ成る。酒を引きて、まさにこれを飲まんとす（飲もうとした）。

その男は、左手で杯をもち、右手で蛇の絵にかき足しながら、

「わたしには蛇の足だってかけるのだ。」と言った。

しかし、それがまだかきあがらないうちに、もう一人が蛇をかきあげた。そのひとが杯を奪って言うことには、

「蛇もとより（もともと）足無し。子^しいづくんぞ（どうして）*よくこれが足をつくらん。」と。つひに（とうとう）その酒を飲む。蛇の足をつくる者、つひにその酒を亡^{つしな}へり。

〈劉向『戦国策』より〉

*「よく」は「能く」で、「ゝ」することが出来る「意を表す。」「これ」は、「蛇」を指す。「どうして（もともとあるはずのない）蛇の足を描くことができるだろうか。（いや、できざるはずがない。）」と言っているのである。

- (1) 傍線部①「相談した」とあるが、その内容を次のようにあらわすとき、ア、イの空欄に入れるべき言葉を書きなさい。また、ウには後のa・bから適切な方を選び、記号で答えなさい。

アにイの絵を描いて、一番
ウできた者が大杯はいの酒を飲むこと。

a. 上手に b. 先に

ア：地面（地表） イ：蛇 ウ：b

(2) この話の内容として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア、最初に蛇の絵を完成させた男は、油断したために勝負に負けてしまった。

イ、二番めに蛇の絵を完成させた男のよ
うに、機転をきかせれば利益を得られる。

ウ、二番めに蛇の絵を完成させた男のよ
うに、何事もゆっくりやったほうが
よい。

エ、最初に蛇の絵を完成させた男は、余計なことをしたばかりに酒を飲みそこねた。

- (3) この文章に書かれている故事からで
きた言葉を、漢字二字で書きなさい。

蛇足